

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

問題として採用した文章については、著作権者への配慮から
掲載を差し控えております。

問一 二重傍線部㉔㉕の漢字をひらがなに、カタカナを漢字に書き改めなさい。

問二 波線部 α 、 β の文脈上の意味として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

α しがらみ

- ア 人間関係を改善するもの。
イ 人間同士が反発し合うもの。
ウ 個人の行動等を押しとどめるもの。
エ 個人の行動等の規範となるもの。

β 諸刃の剣

- ア 利点もあるが、危険もあるもの。
イ とても鋭くがっているもの。
ウ 強みもあるが、弱みもあるもの。
エ 極めて敏感で壊れやすいもの。

問三 (A) に入る表現として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 相手の思いを共感しあう イ おせっかいを焼きあう ウ おたがいを頼りあう エ 他者をのしりあう

問四 (B) に入る語句として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 薄い イ 温かい ウ 濃い エ 冷たい

問五 傍線部①「タイタスは『敵』であるはずの人間のぼくを信頼してくれて、無邪気で無防備な姿をさらしてくれた」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ゴリラと人間が共生していくには、最低限のコミュニケーションを取る必要があるから。
イ 過去の辛い経験にいつまでもこだらわらず、速やかに気持ちの切り替えができるから。
ウ 他者に対して過剰な共感を求めたりせず、それぞれの生き方を尊重する寛大さがあるから。
エ 過去に人間が犯してしまった罪を認め、それを受け入れるだけの懐の深さがあるから。

問六 傍線部②「自然の持っているしなやかな力強さ」とあるが、その説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 状況に応じて的確な行動ができる判断力。
イ 他者と豊かな暮らしを営む上での寛容さ。
ウ お互いの考えを分かり合うための理解力。
エ 孤独な社会でも前向きでいるたくましさ。

問七 傍線部③「ぼくたちの一番身近にある自然＝自分の体に聞いてみると、わかりやすいかもしれません」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人間にはゴリラのように自然の中で暮らしていたころの能力が、今でも体の中には残っているはずだから。
イ 人間は共感を過剰に求める社会で生きているため、それが満たされないと暴力につながるから。
ウ 人間の体にはさまざまな能力が備わっているため、その能力を近代化によって進化させる必要があるから。
エ 人間にとって異質な他者と共生するという問題は、他者との対話を通して解決できるものではないから。

問八 この文章の内容と構成の説明として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア はじめにゴリラの特徴的なコミュニケーションの在り方を確認し、それが人間とどのように違うかを分析した後、ゴリラと人間の共通性に筆者なりの見解を示している。
イ はじめに人間とゴリラのコミュニケーション上の違いに注目し、まず人間の立場からその違いについて考察した後、ゴリラの立場からも考察を試みて、新しい問題を提起している。
ウ はじめに私たちの社会のコミュニケーション上の問題点を明らかにし、そのことに対する筆者の主張を述べた後、ゴリラに関する具体例をあげてわかりやすく説明している。
エ はじめに私たちの陥りやすいコミュニケーション上の二つの失敗を対比し、その一つの失敗の問題を分析した後、ゴリラの日常生活にあてはめて解決策を見いだしている。



次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

問題として採用した文章については、著作権者への配慮から掲載を差し控えております。

- 注
- 1 世知…要領よく世の中を渡っていく才能や知恵
 - 2 ライフステージ…人生における年齢ごとの段階
 - 3 アイデンティティ…自分自身が他とは異なる独自の存在だという自覚
 - 4 家格…家柄。家の階級的な地位。
 - 5 学制…学校教育の関する制度。
 - 6 カテゴリー…同じ性質のものが含まれる範囲。範疇。

問一 傍線部 a～j の漢字の読みをひらがなに、カタカナの部分の漢字に直せ。

問二 空欄「」にはどのような言葉が入るか、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 厚顔無恥 イ 曖昧模糊 ウ 天衣無縫 エ 純真無垢 オ 無我夢中

問三 傍線部①「年齢は人びとを社会的に区分し編成するための非常に大きな原理」とはどういうことか、その説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 年齢は、〈子ども〉から〈大人〉へと段階的に成長するプロセスを数値で示した概念だということ。
- イ 年齢は、身体が成長、発達し、やがて衰えるという生物学的なプロセスを示す概念だということ。
- ウ 年齢は、加齢のプロセスに対して、社会が与えるイメージと深く関わる概念だということ。
- エ 年齢は、幼児期、子ども期、思春期、青年期、中年期、老年期などを細分化した概念だということ。

問四 傍線部②「そうした子ども観」はどのようなものか、その説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 子どもは、一人前の社会人としてさまざまな権利や義務をもつもの。
- イ 子どもは、未熟であるため、大人から庇護され、発達に応じた教育を受けるべきもの。
- ウ 子どもは、自立した存在であるため、大人と同様な責任能力をもつもの。
- エ 子どもは、過度な放任によって、やがて自分と他者の自立を尊重する文化を学ぶもの。

問五 傍線部③「ナバホ・インディアン」はどのようなことを説明するための具体例か、その説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 社会が異なれば、異なった子ども観があり、それによって子どもたちの経験も異なってくるということ。
- イ どのような社会においても、人は大人と子どもに区分され、その区分に応じた扱いを受けるということ。
- ウ 未開民族でも年齢が人々を社会的に区分し編成するための大きな原理として機能しているということ。
- エ 子どもが失敗から学ぶことを尊重し、親が危険なものを先回りして取り除くような教育はしないということ。

問六 傍線部④「西欧では〈子ども〉は、社会の近代化のプロセスにおいて、近代家族と学校の長期的な発展のなかから徐々に生み出されていった」とあるが、次の内の西欧における「〈子ども〉の誕生」についての説明の（）に当てはまる言葉を、本文中から指定された文字数で抜き出して答えよ。

アリエスの説明によれば、中世のヨーロッパでは、子どもは①（五文字）とみなされ、大人と同じように働き、遊び、暮らして「子ども扱い」されることはなかった。それが十七世紀から十八世紀にかけて、無知で無垢な存在とみなされはじめ、大人と明確に②（二文字）され、学校や家庭で③（二文字）されるようになった。このようにすぐに大人にならず〈子ども〉期を過ごすというライフコースのありかたは、④（十文字）であることを明らかにした。

問七 傍線部⑤「西欧とはやや異なったプロセスで〈子ども〉の誕生」とあるが、次の内の日本における「〈子ども〉の誕生」についての説明の（）に当てはまる言葉を、本文中から指定された文字数で抜き出して答えよ。

明治維新以前は、①（五文字）のなかで、所属する階層や男女の別に応じて、それにふさわしい大人になるようにしつけられた。しかし、明治五年の学制の公布によって、それぞれ②（二文字）な世界の子どもたちを学校という③（二文字）な空間で近代的な教育を行えるようになった。それは近代化を進める日本国が〈子ども〉を、④（九文字）の育成をめざして、制度的に生み出されたものだった。

問八 本文の内容に合致するものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア われわれが現在子どもに対して抱いている考え方は、決して普遍的なものではなく、その時代によって変容していくものである。
- イ 時代や社会によって子どもについての観念は変化したものの、子どもを様々な危険から庇護しようとする親の愛情に違いはない。
- ウ 封建社会においては厳然たる身分制に基づく教育がなされており、男も女も平等に所属する階層の職業的な訓練がなされていた。
- エ 近代的な子ども観は日本も西欧も同じような近代化のプロセスを経て、近代家族と学校の長期的な発展の中から誕生していった。

三 次の問いに答えなさい。

問一 次の①、②の文と同じ意味の故事成語を、それぞれ下のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

① 無用な心配。取り越し苦労。

ア 株を守る
イ 杞憂
ウ 螢雪の功
エ 五十歩百歩

② 疑われやすい言動は避けた方がよい。

ア 背水の陣
イ 虎の威を借る狐
ウ 李下に冠を正さず
エ 他山の石

問二 次の文の（ ）に漢字を入れ、文脈に合うように四字熟語を完成させなさい。

① 戦況は一（ ）一（ ）を繰り返す。

② 彼の失敗は因（ ）応（ ）と言えるだろう。

③ 試合に負けて意（ ）消（ ）した。

④ 会議では異（ ）同（ ）に賛成する。

問三 次の傍線部を、へ くの指示にしたがって、適切な敬語に書き直しなさい。

① あの絵はもう見ましたか。〈尊敬語にする〉

② そのことは知つています。〈謙譲語にする〉

③ 二時にそちらに行きます。〈謙譲語にする〉

④ もうすぐお客様が来ます。〈尊敬語にする〉